多文化コミュニケーション：
バハイ原則の言語教育への応用
（ブレンダ・ワッツ追悼発表）

赤木 弥生

<概要>

世界の言語教育は、社会の急速な地球化に伴って、文法中心の伝統的言語教育からコミュニケーションのための言語教育に変わりつつあり、コミュニカテイブ・アプローチの研究が盛んである。英語教育においても、多文化間コミュニケーションのための様々な英語アプローチが研究発表されている。

英語能力の程度にかかわらず、学習が効果的にコミュニケーションを図るためには、多文化コミュニケーション能力の養成が重要である。多文化コミュニケーションのための基本的ストラテジーとは、バハイ原則そのものである。バハイの教えを語学教育に応用していくことで、学習者は容易に多文化コミュニケーションに従事する能力を伸ばすことができる。即ち、学習者が言語学習を無駄にすることなく、言語運用ができるのである。

「人間は最も不思議な力を有する存在である。しかしながら、適切な教育の欠如のために、人間は自己に内在するものを逃がしてしまっている。（中略）人間を、計り知れないほど高価な宝石に富む鉱山と見なせ。教育のみがその宝を放出させ、人類にその利益を享受させることができる。」（『落穂集 ー 選集その二 ー』p. 57）とバハオラは、教育の重要性を述べておられる。日本の英語教育においては、全くバハオラが述べられている現状そのもので、英語という知識を持っている学習者の大半は、適切な教育の欠如によって、言語運用能力を培うことなく、英語学習を無駄にしているのが現状である。このことは、学習者が人類に貢献する機会をも奪ってしまっている結果を生み出してしまっていることにもなろう。

この多文化コミュニケーション・アクテイビテイ「地球市民度チェック」は、学習者が質問に答えることで、バハイの基本原則を自分で、考え、意識していく awareness activity である。学習者のポジテイブな意見を学習者と分かち合うことで、多文化コミュニケーション・ストラテジーであるバハイ理念への理解を深めていく。